

自事業所におけるサビ児管の助言指導について(記入例)

自事業所において、「支援に行き詰った(悩みのあった)ケース」に対して、あなたがサビ児管として、支援員等に支援に係る助言指導を行った事例(又は支援員等として、サビ児管に支援に係る助言指導を受けた事例)を一つあげて、以下の項目に沿って報告してください。

- ・ サビ児管の方…自事業所において、支援員等からケースの相談を受け、助言指導を行ったこと
- ・ 支援員等の方…自事業所において、サビ児管に対しケースについて相談し、助言指導を受けたこと

受講番号() 受講者氏名()

1. 支援に行き詰った(悩みのあった)ケースの概要

①年齢(4 歳) ②性別(男) ③障害種別(知的障害) ④利用サービス(児童発達支援)

⑤主な生活歴

(1歳半健診で発達の指摘あり。親子教室を経て、児童発達支援を利用。転居に伴い利用先変更。)

⑥本人の状況

(2歳位の発達。Aくんの泣き声に拒否行動が目立ち、髪の毛を抜く行為も出始め、母親も心配。)

⑦主な支援内容

(自発性を促しながら、身体を動かしたり、遊びを通じた友だちとの親しい関わりを持たせている)

2. 上記のケースへの助言指導の内容 【☒サビ児管の立場 ☐支援者の立場】 いずれかにチェック

①相談の概要(タイトル)

『Aくんの泣き声から、友だちと同じ部屋で過ごせないCくんへの対応』

②助言したこと(されたこと)

- ・Cくん自身はいまどんな気持ちでいるか、いろいろな角度から深く考えてみる
- ・普段のCくんの様子も含めて、Cくんの良いところ(違った側面)にも着目してみる
- ・いま生じている問題を除去するだけにならないように、アプローチによって解決を試みる
- ・あらためて個別支援計画書を見返してみる(今の状況と関わりを整理し共有すること)

3. サビ児管として助言指導したこと、又はサビ児管から助言指導されたことから…

→サビ児管の方…どんな視点をもってアドバイスしたか(どんなことを大切にしているか)

→支援員等の方…サビ児管にどんなアドバイスを期待したか(どんなことを大切にしたいと思えたか)

- ・支援者の価値観(あるべき姿)にとらわれず、まずは本人の思いの理解に努める
- ・一人の支援者の思いだけで支援の方向づけをしない(支援方針を確認し合っていく)
- ・他者の関わり(見立て)やこれまでの記録なども参考に、客観的にものごとをとらえる
- ・その場限りの支援ではなく、その後の暮らしや環境の変化を見据えて今の関わりを考える

※ この課題は、研修当日にグループワークで使用します。